

(様式第1号)


平成30年10月26日

認定介護福祉士認証・認定機構  
理事長 大島 伸一 様

領域名：心理・社会的支援の領域  
科目名：地域生活の継続と家族支援  
単位数：2  
認証申請する研修の名称：認定介護福祉士養成研修

団体名：一般社団法人岡山県介護福祉士会  
団体事務所の所在地：〒700-0807  
岡山市北区南方2-13-1 きらめきプラザ7階  
電話：086-222-3125  
FAX：086-222-6780  
E-mail：okayama-kaigo@woody.ocn.ne.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者：会長 安達 悦子   
申請責任者：事務局長 神寶 誠子

記

○認定介護福祉士研修認証申請書（別紙1～3）

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号

(※は記入しないでください)

認定介護福祉士研修認証申請書

申請年月日	平成30年10月26日
申請団体名	一般社団法人岡山県介護福祉士会
申請団体代表者氏名	会長 安達 悦子
申請責任者職名	事務局長
申請責任者氏名	神寶 誠子
団体住所	〒700-0807 岡山市北区南方2-13-1 きらめきプラザ7階
同 Tel・Fax	Tel : ( 086 )-( 222 )-( 3125 )
メールアドレス	Fax : ( 086 )-( 222 )-( 6780 ) E-mail <u>okayama-kaigo@woody.ocn.ne.jp</u>
申請対象の領域	領域名 : 心理・社会的支援の領域
科目名 (単位数)	科目名 : 地域生活の継続と家族支援 (2単位)
申請する研修名	認定介護福祉士養成研修
研修認証実績	年 認証番号 ( )
	年 認証番号 ( )
	年 認証番号 ( )
その他特記事項	

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	心理・社会的支援の領域	
科目名	地域生活の継続と家族支援	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
教育目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者本人が培ってきた社会関係、社会的役割の維持、社会参加の支援や、家族への支援が行えるとともに、介護サービスだけではない地域のインフォーマルな資源も活用して、地域生活の継続が支援できる実践力を習得させる。</li> </ul>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が培ってきた社会関係や社会的役割を踏まえて、介護サービスを利用することが必要になってもそれらとの関係を断ち切らずにできるだけ維持できる支援の計画を考案することができる。</li> <li>・インフォーマルな担い手による互助の活動について、担い手、活動内容、連携の方策や留意点について説明できる。</li> <li>・家族介護者の負担や困難について、典型例をあげるとともに、家族介護者への支援や連携の方策について説明できる。</li> <li>・複合的な困難を抱える家族について、典型例をあげるとともに、支援や関係機関等との連携の方策について説明できる。</li> </ul>	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<p>○地域での多様な生活ニーズに対して適切なソーシャルサポートをつなぐ支援</p>	<p>事前課題①（5時間）                      自職場の利用者の生活歴を聞き取り、その人が生きてきた歴史をライフサイクルに沿って事例としてまとめる。特に、要介護状態となり、今までに培ってきた社会的役割や家庭内における役割がどのように変化していったのか、現在の生活状況と合わせて4000字程度にまとめて持参すること。                      （注）課題①は演習で使用するので、利用者の選定にあたってはプライバシー等に配慮し、本人または家族、所属長等に使用目的を説明し了解を得る等、倫理的手続きを行う事。</p> <p>事前課題②（5時間）                      自職場の周辺にはどのような地域資源（フォーマルサービス、インフォーマルな互助活動等サービス、高齢者や障害者が生活で利用する施設等）があるか。インフォーマルな互助活動や資源が高齢者や障害者の地域生活にとってどのような役割をはたしているかをまとめる。さらに、利用者及び利用者の家族を一つ取り上げて、地域資源が生活の質にどのように影響しているのかを4000字程度にまとめて持参すること。                      （注）課題①と同様に倫理的手続きを行う事</p> <p>講義①（2時間）                      1. アセスメントを通じた生活ニーズの理解                      2. 地域生活の自立につながる社会資源の調整                      3. 利用者の持つ資源とソーシャルサポートと不足する資源開発</p> <p>社会的存在としての人間の特徴をライフ</p>

	<p>○ライフサポートワークの講義と演習</p> <p>○家族支援</p>	<p>サイクルに沿って講義する。特に高齢期における役割と居場所の必要性を理解し、人生を時間軸から捉える方法等について講義する。</p> <p>演習①（3時間） 持参した事例課題①を使用して講義①の内容を参考にしながら事例検討を行い、介護支援の原則や支援方法等について各自の事例から検討する</p> <p>講義②（2時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ライフサポートワークの基本的な考え方</li> <li>2. 利用者の望む暮らしの実現と社会資源の活用</li> <li>3. 利用者の役割や生きがいのための社会資源</li> <li>4. 地域包括ケアに必要な自助及び互助</li> </ol> <p>演習②（3時間） 事前課題②を使用して事例検討を行い、利用者と社会資源をつなぐエコマップの作成し、本人にとっての役割や生きがいを見出すために認定介護福祉士の役割をグループワークを通じて考える。</p> <p>講義③（2時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族とは、家族の抱える問題とは何か</li> <li>2. 家族介護の心理</li> <li>3. 家族介護の評価</li> </ol> <p>演習③（3時間） 事前課題②を活用し、家族介護者の負担感を理解し、家族を支援する必要性や社会資源の活用及び多職種連携の必要性をグループワークを通じて考える。</p> <p>事後課題①（5時間） 利用者の家族支援に関する事例を一つ取り上げて4000字程度にまとめて持参すること。担当事例がない場合は、経験のある上司や同僚等の話を聞いてまとめる、または先行研究事例を用いてまとめること。 （利用者の家族支援に関する事例の一例） 家族介護者の負担と支援 複合的な困難を抱える家族への支援</p>
<p>研修方法</p>	<p>■ 集合研修 ■ 課題学習</p> <hr/> <p>○ 集合研修講義と演習を組み合わせて行う ○ 課題学習は事前、事後課題としてレポート課題を課す。評価は担当講師が行う。</p>	
<p>研修時間</p>	<p>30時間（集合研修 15時間、課題学習 15時間）</p>	
<p>修了要件</p>	<p>○ 全課程の出席を要する。公共交通機関の影響、冠婚葬祭、担当する利用者の急変等のやむを得ない事情による遅刻、早退は30分以内とし、30分を越える遅刻・早退は認めない。30分以内の遅刻・早退の場合は、レポート課題を提出するものとする。 ○ 修了評価として行う筆記試験（50問程度）において、A～C評価（100点満点中60点以上）であること。D評価（59点以下）の場合は、再試験を行い、A～C評価となら</p>	

	なければならない。なお、再試験は複数回の受験を可能とする。
講師要件（講師の 選定基準）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある者</li> <li>・補助者についても当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある者</li> </ul>
(2)受講者について	
受講対象 (受講要件)	<p>単位取得できるのは介護福祉士資格を有するものであること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「認定介護福祉士概論」を修了していること。</li> <li>・「心理的支援の知識・技術」を修了していること。</li> </ul>
修了評価	事後課題①のレポート(100満点)の評価と筆記試験(50問程度)(100点満点)により行い、事後課題、筆記試験共に、100点～80点をA評価、79点～70点をB評価、69点から60点をC評価、59点以下をD評価とする。A～C評価(100点満点中60点以上)で修了とする。
(3)研修の環境条件	
定員（講師の配置 基準）	30名（講師1名）演習時も同じ講師が行う。
開催場所（都道府 県）	

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証

認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 2020年8月予定
	②
	③
開催場所 (会場)	① 岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館
	②
	③
(2) 講師	
担当、氏名及び略歴	担当講師 (講義・演習・評価) : 谷口 敏代 氏
	<b>【職歴】</b>
	<実務経験、教育・研究活動>
	昭和50年4月 : 岡山大学医学部附属病院第一外科病棟 就職 (看護師) (昭和53年3月まで)
	昭和55年1月 : 岡山看護専門学校 専任教員 (基礎 看護学・成人看護学) (昭和57年3月まで)
	昭和57年4月 : 川崎医科大学附属川崎病院外科病棟 (看護師) 岡山看護専門学校より出向 (昭和59年3月まで)
	昭和59年4月 岡山看護専門学校 専任教員 (平成10年3月まで)
	平成10年4月 岡山県立大学短期大学部健康福祉学科 生活福祉専攻 助教授 (生活支援技術) (平成17年3月まで)
	平成17年4月 岡山県立大学短期大学部健康福祉学科 生活福祉専攻 教授
	平成19年4月 岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科 教授 (平成30年3月)
平成25年4月 岡山県立大学保健福祉学部保健福祉 学科長・大学院保健福祉学研究科保健 福祉学専攻長 (平成27年3月まで)	
平成30年4月 島根県立大学看護栄養学部看護学科 (現在に至る)	
<関連資格・免許>	
昭和50年5月 看護師 (免許番号 274346)	
平成17年4月 臨床心理士 (日本臨床心理士資格認定協会 13474)	

【講師経験・社会活動等】

<講師経験>

平成 15 年 8 月 介護教員講習会「介護福祉教育方法」講師  
(平成 22 年まで)

平成 21 年 6 月 介護福祉士養成実習施設実習指導者講習会  
講師 (平成 29 年まで)

平成 21 年 11 月 主治医意見書研修会・在宅医療推進実地研  
修会 講師 「介護福祉の発展～介護福祉  
教育の現状と課題～介護と医療の連携強化  
に定めるために」

平成 25 年 6 月 実務者研修教員研修会講師 (平成 29 年ま  
で)

平成 26 年 2 月 一般社団法人岡山県介護福祉士会ファース  
トステップ研修会 講師  
「介護職の健康・ストレスと管理」(現在に至  
る)

平成 26 年 11 月 鹿児島県西之表市老人福祉センター 民生  
委員対象講演 「安心と豊かな暮らし防災  
意識と避難行動」

平成 28 年 5 月 岡山県介護福祉士会倉敷地区研修会講師  
「介護職員のメンタルヘルスとその対処」

平成 29 年 6 月 平成 29 年度第 1 回岡山県認知症ケア専門  
士研修会講師「実践報告・研究発表の方法を  
学ぶ」

平成 29 年 11 月 日本介護福祉士養成施設協会全国教職員研  
修会講師「介護福祉を学ぶ ～大学での養成  
の立場から～」

<委員会活動>

平成 11 年 12 月 訪問理美容福祉モデル事業実施委員会委員  
(岡山県) (平成 12 年 3 月まで)

平成 18 年 3 月 介護福祉士国家試験(実技試験)実地試験  
委員 (平成 20 年 3 月まで)

平成 20 年 7 月 介護福祉士国家試験委員(副委員長) (現  
在に至る)

平成 21 年 12 月 静岡県立大学資格審査委員会委員 (平成  
22 年 3 月 31 日まで)

平成 22 年 9 月 鏡野町地域包括ケア会議委員 (平成 27  
年 3 月 31 日まで)

平成 23 年 9 月 介護福祉士養成課程における技術修得度評  
価等の基準策定に関する検討会 (委員長)  
(平成 24 年 2 月まで)

平成 27 年 1 月 文部科学省委託事業「介護福祉士に特価し

た第三者評価科目に基づく各養成校への評価  
実施とその成果実証」事業 第三者評価委員  
(現在に至る)

平成 28 年 2 月 介護福祉士国家試験に関する出題基準等検  
討委員会委員

(平

成 28 年 4 月 30 日まで)

平成 28 年 1 月 認定介護福祉士認定委員 (現在に至る)

平成 29 年 4 月 岡山県福祉・介護人材対策推進協議会 幹  
事 (平成 29 年 7 月 5 日 平成 30 年 3 月  
28 日 岡山県福祉・介護人材対策推進協議  
会 (実務者会議) 座長

平成 29 年 7 月 認定介護福祉士研修認証委員会幹事審査委  
員 (平成 30 年 3 月 31 日)

平成 29 年 11 月 長寿社会開発センター「介護職員関係養成  
研修テキスト作成委員会」委員 (平成 32 年  
3 月 31 日)

< 関連担当教科 >

岡山県立大学

岡山県立大学：介護管理 介護原論 介護過程総論 生活支  
援技術 コミュニケーション技術論  
介護総合演習 介護福祉実習 専門ゼミナ  
ール

健康と心理 おかやまを学ぶ

岡山県立大学大学院保健福祉学研究科保健福祉学専攻 (博士  
前期課程)：

介護科学特論 I 介護科学特論 I 演習 保健  
福祉支援科学特別研究

大学院保健福祉学研究科保健福祉学専攻 (博士後期課程)

高齢者保健福祉学特別講義 I 保健福祉学特  
別研究

島根県立大学：在宅看護論

島根県立大学大学院看護学研究科：保健福祉学特論 I 保健  
福祉医療政策論 I

【著書等】

著書 (平成 26 年以降)

1) 太田貞司監修、太田貞司・諏訪徹・本名靖・上之園佳子・  
鈴木聖子・谷口敏代共著：地域ケアを拓く介護福祉学シリ  
ーズ 生活支援総論、第二部第 3 期 Take10「高齢者とな  
って 家族支援のための取り組み」担当執筆、光生館、平  
成 26 年 4 月。



- 2) 谷口敏代・中村裕子編集：最新介護福祉全書 別巻4 障害別生活支援技術、第7章「発達障害のある人の生活支援技術」執筆、メヂカルフレンド社、平成27年2月。
  - 3) 太田貞司監修、鈴木聖子・谷口敏代・上之園佳子編著：地域ケアを拓く介護福祉学シリーズ 生活支援の実践、編集および第6章「多職種連携による生活支援」担当執筆、光生館、平成27年3月。
  - 4) 太田貞司監修、上之園佳子・谷口敏代・鈴木聖子編著：地域ケアを拓く介護福祉学シリーズ 生活支援の基礎理論Ⅰ、編集および第8章2「家族支援」担当執筆、光生館、平成27年3月。
  - 5) 太田貞司監修、谷口敏代・上之園佳子・鈴木聖子編著：地域ケアを拓く介護福祉学シリーズ 生活支援の基礎理論Ⅱ、編集および第2章6「睡眠のしくみとはたらき」担当執筆、光生館、平成27年3月。
- 論文（平成26年以降 抜粋）
- 1) 谷口敏代・合田衣里・廣川空美他：介護福祉職員における部下や同僚との関係構築に必要な相談対応力構造の検討：インターナショナル, *Nursing Care Research* 第13巻、第3号、P1-10、平成26年10月。
  - 2) 松田実樹・谷口敏代・原野かおり他：介護福祉職の生活支援の視点からみる障害児（者）の居宅生活を困難にしている生活課題の分析、介護福祉教育、第20巻第2号 P35-43、平成27年9月。
  - 3) Taniguchi Toshiyo・Takaki Jiro・Hirokawa Kumi et al : Associations of workplace bullying and harassment with stress reactions: a two-year follow-up study. *Industrial health* Vol54(2) 131-138 , 2016.
  - 4) Hirokawa Kumi・Miwa Machiko・Taniguchi Toshiyo et al: Moderating effects of salivary testosterone levels on associations between job demand and psychological stress response in Japanese medical workers. *Industrial health* Vol54(3) 194-203 2016.
  - 5) 谷口敏代・若崎淳子・松田実樹他：がんに罹患している利用者を支える訪問介護員の役割とケア困難感、インターナショナル, *Nursing Care Research* 第15巻 第2号 P83-92, 平成28年5月。
  - 6) 谷口敏代・時實 亮・合田衣里他：介護老人福祉施設における組織の公正性と介護福祉士の相談対応力がワーク・エンゲイジメントに及ぼす影響、介護福祉学 第23巻 第1号 P10-19, 平成28年10月。
  - 7) 時實亮・谷口敏代・高木二郎他：介護福祉士の職場特性と個人要因とワーク・エンゲイジメントとの関連、厚生

	<p>の指標 Vol.63.No.12 p7-13, 平成 28 年 10 月.</p> <p>8) 米原あき・谷口敏代: 認知症対応型共同生活介護(グループホーム)における管理者のサービス評価の認識と関連要因について、日本認知症ケア学会誌、第 15 巻第 4 号 P785-795, 平成 29 年 1 月.</p> <p>9) 時實亮・米原あき・谷口敏代: 介護福祉職のワーク・エンゲイジメントに関する研究-年齢層別および経験年数層別の比較、介護福祉士 No,22 P24-33, 平成 29 年 8 月.</p> <p>10) 岡本健介・山本まき恵・谷口敏代: 障害者支援施設における「不適切なケア」の因子構造、岡山県立大学保健福祉学部紀要 第 24 巻 1 号 P49-57, 平成 29 年 3 月.</p> <p>その他 ((平成 26 年以降 抜粋)</p> <p>1) 日本介護福祉学会事典編集委員会 井上千津子、太田貞司、谷口敏代を含む 193 名で執筆: 介護福祉学事典、編集及び、「介護福祉研究における倫理的配慮」「休息と活動の意義と目的」部分を担当執筆、ミネルヴァ書房、平成 26 年 10 月.</p> <p>2) 小林光俊(代表)・谷口敏代・他: 介護福祉士に特化した第三者評価システムの構築、平成 26 年度文部科学省委託事業、平成 27 年 3 月.</p> <p>3) 小林光俊(代表)・谷口敏代・他: 介護福祉士に特化した第三者評価項目に基づく各養成施設への評価実施とその成果検証、平成 28 年 3 月.</p>
(3) 実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	認定介護福祉士養成研修実行委員会(岡山県介護福祉士会正副委員長・事務局員) 10 名内常勤 2 名
研修の企画運営に関する諸規程	岡山県介護福祉士会定款に準ずる
研修管理責任者職名	岡山県介護福祉士会研修委員長
研修管理責任者氏名	松島 智枝美
機構問合先部署	岡山県介護福祉士会事務局
機構問合先担当者氏名	藤原 美恵子
機構問合先電話番号/FAX	TEL 086-222-3125/ FAX 086-222-6780
機構問合先 e-mail アドレス	okayama-kaigo@woody.ocn.ne.jp
受講問合先部署	岡山県介護福祉士会事務局
受講問合先担当者氏名	藤原 美恵子
受講問合先電話番号/FAX	TEL 086-222-3125/ FAX 086-222-6780
受講問合先 e-mail アドレス	okayama-kaigo@woody.ocn.ne.jp

(4) 研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	岡山県介護福祉士会事務局
受講履歴の管理方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■紙媒体及びデータによる台帳管理</li> <li>■外付けディスクにバックアップデータを保管する</li> <li>■データ保存期間は10年間、その後は外付けディスクでデータを保管する。</li> <li>■個人情報の取り扱いにあたっては、法律を遵守する。</li> </ul>
受講履歴の証明	各科目を修了した時点でその科目の修了証明書を発行し、全過程を修了した者には、岡山県介護福祉士会会長名による修了証明書を発行する。
管理責任者氏名	事務局長 神寶 誠子
管理担当者氏名	事務局員 藤原 美恵子

(別添資料)

集合研修における具体的なコマシラバス

申請対象の領域 心理・社会的支援の領域  
科目名 地域生活の継続と家族支援  
集合研修の総時間数 15 時間

1日目 (5時間)

時間	テーマ	展開内容 (講義ポイントや演習の展開内容)	留意事項等	担当講師 (補助講師)
10:00~12:00 (120分)	導入  地域での多様な生活ニーズに対して適切なソーシャルサポートを なぐ支援	1. 認定介護福祉士として、利用者の地域生活の継続と 家族支援を学ぶ意味を説明 研修展開について説明  2. アセスメントを通じた生活ニーズの理解 地域生活における利用者・家族の生活の継続のため の「介護福祉士」「認定介護福祉士」の役割と「介護 福祉」の本質、ケアマネジメントの視点について説 明  3. 地域生活の自立につながる社会資源の調整 認知症高齢者、障害がある高齢者の自立とは何か、 介護福祉における自立とは何かについて説明 社会的存在としての人間の特徴をライフサイクルに 沿って説明 特に高齢期における役割と居場所の必要性を理解	事前課題で利用者の生活 歴を聞き取り、その人が 生きてきた歴史をライフ サイクルに沿って事例と してまとめているので、 発問を重視しながら講義 をすすめる。	谷口敏代

		し、人生を時間軸から捉える方法等について説明 3. 利用者の持つ資源とソーシャルサポートと不足する資源開発 社会的な繋がり、人間関係、ソーシャルサポートの維持、再形成の支援について説明 社会参加と重要性の支援について、成功事例と失敗事例を紹介する 介護サービスによって、社会関係等を断ち切ってしまう危険性とその回避、社会的役割の維持、社会参加の支援について説明	
12:00～13:00	休憩		
13:00～16:10 (180分) 途中10分休憩	地域での多様な生活ニーズに対して適切なソーシャルサポートをつなぐ支援	(演習1) 持参した事例課題①を使用して講義①の内容を参考にしながら事例検討を行い、介護支援の原則や支援方法等について各自の事例から検討する	演習の流れを調整し途中、10分の休憩を入れる
			谷口敏代

2日目 (5時間)

時間	テーマ	展開内容 (講義ポイントや演習の展開内容)	留意事項等	担当講師 (補助講師)
10:00～12:00 (120分)	導入 ライフサポートワーク	1. 前回の講義の復習		谷口敏代

	<p>の講義と演習</p>	<p>2. ライフサポートワークの基本的な考え方  地域包括ケアシステムが目指す、「高齢者が尊厳を保ちながら、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができている住み慣れた地域の中で暮らすことができることの意味と、認定介護福祉士の役割を説明する</p> <p>3. 利用者の望む暮らしの実現と社会資源の活用  地域のフォーマル、インフォーマルな担い手による活動、中でも自職場の市町村ではどのようなインフォーマルな資源があるのか、地域のインフォーマルな担い手による互助活動の意義と機能、主な担い手やサービスの内容、連携の方策や留意点を説明</p> <p>4. 利用者の役割や生きがいのための社会資源  利用者の生きがいとは何か、先行文献や先行事例を紹介する</p> <p>5. 地域包括ケアに必要な自助及び互助  地域包括ケアシステムにおける介護福祉士・認定介護福祉士の活躍の期待と可能性  地域にある資源をどのように発掘していくのか、先行事例を紹介する</p>	<p>事前課題②で地域資源が利用者の生活の質にどのような影響しているかをまとめ、発問を重視しながら講義をすすめる。</p> <p>利用者の望む暮らしの実現に取り組んでいる市町村、団体の事例を紹介</p>	
12:00～13:00	休憩			

13:00～16:10 (180分) 途中10分休憩	ライフサポートワーク の講義と演習	(演習2) 事前課題②を使用して事例検討を行い、利用者と社 会資源をつなぐエコマップの作成し、本人にとって の役割や生きがいを見出すために認定介護福祉士の 役割をグループワークを通じて考える。 エコマップから不足している資源、今ある資源やソ ーシャルサポートをより活用・開発するための方法 を考える	演習の流れを調整し途 中、10分の休憩を入れる	谷口敏代
----------------------------------	----------------------	--	----------------------------	------

3日目 (5時間)

時間	テーマ	展開内容 (講義ポイントや演習の展開内容)	留意事項等	担当講師 (補助講師)
10:00～12:00 (120分)	導入 家族支援	1. 前回の講義の復習  2. 家族とは、家族の抱える問題とは何か 家族とは、家族の機能、家族のライフサイクル、家 族システム、家族のエンパワメント、家族介護者の 思いや願い、男性介護者、家族介護とジェンダー論、 老老介護、複合的な困難を抱える家族支援について 先行研究をもとに説明 3. 家族介護の心理 家族の葛藤と自己犠牲、家族介護者の主観的 QOL,	事前課題②で取り上げた 家族の事例を活用し、発 問を重視しながら講義を すすめる。	谷口敏代

<p>12:00～13:00</p>		<p>家族介護者の介護従事に伴う心理過程について先行研究をもとに説明</p> <p>4. 家族介護の評価</p> <p>家族介護を何で評価するのか先行研究をもとに説明。家族問題を理解するモデル (ABC-X モデル, 二重 ABC-X モデル, コンボイモデル, 家族関係モデル) を紹介し, 事前課題②で取り上げた家族像から家族観や家族への支援を考える。</p> <p>介護負担感を測定することの意味と, 介護福祉への活用の可能性を説明</p> <p>近年増加している男性介護者の課題と介護福祉士, 認定介護福祉士の役割を説明</p>		
<p>13:00～16:10 (180 分) 途中 10 分休憩</p>	<p>休憩</p> <p>家族支援</p>	<p>(演習 3)</p> <p>事前課題②を活用し, 家族介護者の負担感を理解し, 家族を支援する必要性や社会資源の活用及び多職種連携の必要性をグループワークを通じて考える。</p> <p>事後課題の説明</p>	<p>演習の流れを調整し途中, 10 分の休憩を入れる</p>	<p>谷口敏代</p>